

丸亀城

丸亀城は、亀山という丘から、香川県西部最大の人口密集地である丸亀市を見下ろしています。江戸時代（1603 年～1867 年）からの木造の砦が残っている、日本でわずか 12 の城の 1 つです。元の城は、1597 年から 1602 年にかけて、讃岐国（現在の香川県）の領主である生駒家によって建てられました。異なる藩主を経て、何世紀にもわたって改造や再建が行われてきました。特に、江戸時代のほとんどにわたって治めた京極家が行いました。1868 年の明治維新により、武家による日本の統治が終了した後、城は正式に廃止されました。特徴的な 3 階建ての砦は、1660 年に作られました。高さ 15 メートルで、国内に残っている同様の 12 の建造物の中で最小です。砦は、大手一の門、大手二の門とともに、重要文化財に指定されています。城は、建物のほかに、堂々とした城壁で有名です。この城壁により、要塞への侵入は非常に困難であったと考えられています。城壁は上から下まで 22 メートルの高さで、内堀と砦の間に 4 つの段丘を形成しています。